

「ワークシート④ 家族の避難先を知って、連絡を取る」

- 学習のねらい： 1. 災害時の家族の居場所と連絡先、避難行動を知る。
2. 災害用伝言ダイヤルなどを用いた災害時の連絡について学習する。

(活用例)

- ・ 災害用伝言ダイヤル（171）に伝言をすることができるか練習する。
- ・ 家に持ち帰り、家族で話し合って記入する。

(指導上のポイント)

- ◆ 家族の中に小さい子どもやお年寄りがいる場合、生徒自身が迎えに行くことも考えさせる。
- ◆ 自宅・学校・家族の職場近くや、通勤通学途中にある避難所の場所を家族で確認しておくよう指導する。

(指導上のポイント)

- ◆ 171の説明だけに終わらず、貼り紙などでも、家族と連絡を取ることができることを指導する。
- ※災害用伝言ダイヤル体験可能な日
- ・ 毎月1日、15日
0時～24時
 - ・ 1月1日 0時
～1月3日 24時
 - ・ 防災週間
(8月30日9時
～9月5日17時)
 - ・ 防災とボランティア週間
(1月15日9時
～1月21日17時)

防災ノート(ワークシート④) 高校生版



家族の避難先を知って、連絡を取る

家族がそれぞれ異なる場所にいるときに地震が起きた場合、誰がどこに避難するか決めておき、情報を共有していれば、家族が再会しやすくなります。

家族でどこに避難するか、話し合ってみましょう。

家族	時間帯	主な居場所と避難先	避難後
例) 父	平日昼間	勤務先(〇〇事務所)→ 勤務先のビル	交通機関が復旧するまで待機する。
	平日朝夕	電車の中 → 車掌の指示に従う	災害用伝言ダイヤル(171)で 避難先を伝える。
※上記例を参考に記載させてください。			

伝言の録音方法

171にダイヤル

ガイダンスに従う

録音の場合 ①

電話番号
(XXX) XXX-XXXX

伝言の再生方法

171にダイヤル

ガイダンスに従う

再生の場合 ②

電話番号
(XXX) XXX-XXXX

災害用伝言サービス
災害発生時などは、携帯電話を利用して災害情報を登録でき、家族や友人の緊急情報を携帯電話やパソコンからも確認できます。お持ちの携帯電話会社にサービス方法を確認してください。

○災害用伝言ダイヤルの使い方を家族全員で、覚えておきましょう。

また、張り紙で知らせるのも一つの方法です。さらに、助けが必要な家族がいるならあなたが助けに行く心構えをしておきましょう。

- ◆ 家族の避難先について、家族で話し合い感想を書きましょう。
- 例) 津波でんでんこのように家族が信頼をもって避難できるようになった。